

今年は存分に山を楽しんだ

(39年卒) 木村 恒夫

卒業後歳を重ねて最終のハードルを越すと身体のあちこちに痛みや病が忍び寄って来て対応するのが忙しい。これに打ち勝つべく気力を振り絞って若い時からの思いを満たすべく行動が第一と頑張っている今日この頃です。

RUWV関連ではワンダラーの先輩である鎌田さんグループと1月に乗鞍ゲレンデスキーから飛び出して山スキーの真似事が始まりで、3月に八甲田山を縦横に滑りまくり(報告済み)、5月には山小屋ワーク・キャンプやRUWV京都トレイル(愛宕山を含む)、6月に愛宕道から茶吞峠へ、10月に入ってトレイル「茶吞峠～城丹国境尾根～棧敷が岳～岩屋不動」まで行動を共にすることが出来て良かったなと思っている次第です(詳細は48卒岩切氏がOB会HPに報告されている通り)。

[苗場山&平標山]

私の他の今年の大きな山行は7月末から8月初めに苗場山に登りました。苗場山は想像していた通り尾瀬が鍋底に地糖が広がっているとすれば尾瀬の鍋底を天上に押し上げた感じで地糖群が広大でした。

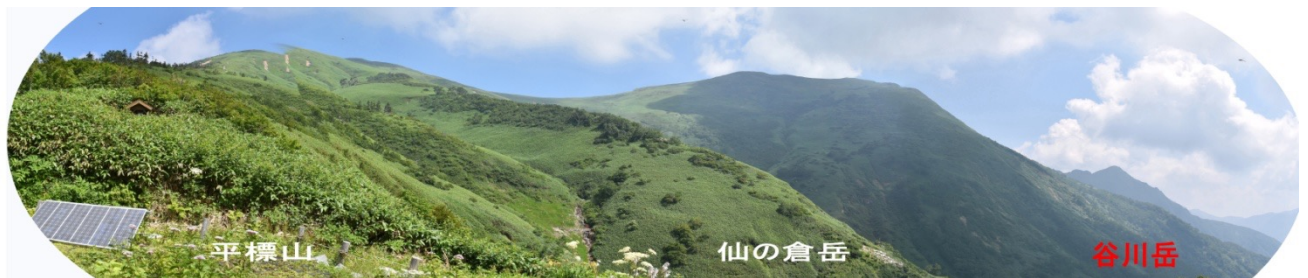


拾数年前湯沢スキー場や神楽峰スキー場でゲレンデスキーを楽しんだことが有ります。

その合間に山スキーで神楽峰の頂上を目指し頂点に至り苗場山を目前にしたことが有って何時か登り返そうと思っていたことがヤット実行出来ました。

夕刻のブヨには悩まされました静かに暮れる抒情的な感じには満足でした。

平標山は花の時期が過ぎていたのか感嘆する様な花には出会えけませんでした但谷川岳が望めま



した。

(平標小屋から)

[白山]

会社勤めをして間もなく白山山麓の市瀬から頂上を経て岩間温泉まで歩いたことが有りました。

休暇が取りにくい時代でしたので確保した日程に登ろうと雨にも関わらず登ったことを思い出します。風雨キツイ中ひたすら歩き岩間温泉に転げ込み生気を取り戻しましたが全く景色が見えずで散々でした。

2年前に大白川から登ろうと登山口迄行きましたが登山直前雨が降り出しむかしのこともあって中止し登山口にある露天風呂に入って撤退。

今年に入って新緑の白山登山を検討したが大白川のルートが雪崩で通行止めと成っていました（10月2日開通らしい）。

再度何とか登りたいとお盆前の天気の良いさうな日を探して出かけました。

コースは最短の別当出合から砂防新道～頂上（宿泊）～観光新道の一般道を辿りました。



白山は鳥海山や月山と同じく昔から信仰深い

山であったこと今も人気のある山なので登山道は良く整備されていて同様に登りやすかった。

室堂小屋は大きな立派な建物と成っていて昔はどうであったか思いだせない。

思いのほか早く着いたので小屋の宿泊手続きを済ませ双子峰を目指す。

頂上からは今日まで白山を眺めていた北、中央アルプスや荒島岳、その他の場所を見返すこ

(白山室堂&御前峰2702m)

とが出来た。

御嶽山からの噴煙は今まで御嶽山に見た事の無い噴煙が上がっている。

多くの登山者の命を奪われたことは残念で合掌をしご冥福を祈る。

白山も同じ火山であるが噴煙を上げている所は今が無いが爆裂孔には残雪と水が溜まり御宝庫として美しい景観を保っている。

お池巡りコースとして整備されているし花々も群生を成し楽しませてくれる。

昔同じ場所を歩いているはずであるが全く印象が違って何か新鮮な感じで満足した。

帰路は観光新道を白山別山、荒島岳や足元のハクサンと名の付く綺麗な花を眺めながら下山しました。

[荒島岳山麓]

9月半ばに成ると例年キノコが出だす。

昨年度は舞茸を見つけることが出来ずで10月後半にやっとナメコを収穫しました。



この9月初めには台風が連続して来たり、長が雨が續いたりでキノコの生育状況は良いとみて友人と誘い合わせて密林(?)の中に舞茸を求めてさ迷うが如く入り込みやっと見つけることが出来ました。

これだけ大きな株を見つけたのは初めてで本当に「舞い踊る」気持ちと成りました。

自然に感謝です。

[焼岳]

9月半ば過ぎ上高地からも周りの山からも良く眺めていた山で何時でも簡単に行ける山として登っていなかったのが焼岳である。



御嶽山が噴火したので焼岳も要注意であろう。

(頂上の眼下のお釜)

焼岳小屋までは普通の登山道でしたが暫くすると火山らしい登山道となり所々湯気が立ち上りその周りを触ると温かく火山とを感じる。

関西では感じられない味があり、お釜はエメラルドグリーンの水を貯めていた。

以前登った霞沢岳方面や大正池ははっきり目前に見れたが、笠岳に掛かる雲が中々切れず笠岳の雄姿見れずじまいでした。

低い山なので登った時点では紅葉は皆無でした。

元気であれば何時か中の湯からスキーで登りたいなと中の湯方面を見降ろしました。

[奥穂高岳&涸沢岳]

9月末に勢いで奥穂を目指すことに成る。

昔、槍沢から槍ヶ岳を登り奥穂迄縦走する積りで槍ヶ岳を登った夜に雪が降ったのは忘れもしない10月10日でした。

自分たちの能力では縦走はとても出来ずと判断して中岳から新穂高温泉に下ったことがあった。

その後は何時でも登れるとして保留していた今日に至ってしまった。

この度、簡易コースとして上高地～涸沢小屋(泊)～穂高岳小屋～奥穂高～涸沢岳～涸沢小屋～上高地と老体でも問題ないとコースを選定をしました。



(涸沢ヒュッテの上部当たり)

早いこと登っておこうと平湯奥の中尾の駐車場に車を置き往復することにした。

4連休中であつたので駐車場は満杯。

近くの路上に場所を見つけ山の噴煙が立ち上がる側を通って頂上を目指す。

上高地や中の湯方面から登る人が多いのであろうこちらからは数人を見かけただけの静かな登山が出来ました。

上高地では紅葉が少し早いかなと思えたが横尾を越えた辺りから段々色づき涸沢に着いた所あたりは紅葉として最高の色付きに成っていました。

涸沢ヒュッテでは大きな望遠レンズを構えパチパチ写している人や生ビールを飲んでいる人が多く、私も生ビール片手に風景を存分に味わい、明日登る山を眺め、その日の疲れをいやしました。

翌日、長く登頂を保留していた奥穂高岳の頂上を目指し高度を上げて行く。

富士山、北岳に続く高い山の穂高岳小屋目の急登を登り切って念願の頂上に着き、頂上で360度の展望を存分に味わい、私として懸案であつた課題を一つ消すことが出来ました。

[劔岳～別山～雄山]

10月に入って好天が続く。

WV・OBで続けている京都トレイル3の後、特に用事が無かったので時期的に劔に登れるかどうか？であったが思いきって勢いで挑戦することにしました。

早い時間の立山からのケーブルとバスで劔を目指しました。

この山も雷鳥沢から劔御前小舎に山スキーで挑戦したことが有るが途中で撤退、その後保留したままであった。



天気が午後から崩れるかも知れないとのことで急いで御前小舎、劔沢小屋の前を通って予約済みの劔山荘を目指した。

14時に着いたので天気も何とか持ちそうなので下見として前劔を目指すも風強く寒く持ち時間も少ないので一服劔で引き返した。

この日に小屋から劔頂上を目指した方がいて話を聞くと北面に氷結していないが雪がう

っすら着いているとのこと。劔山荘から往復6時間掛かったとのことであった。

翌日早く起きいるもガスが掛かり視界悪く気温もマイナス5度前後である。

良く見るとナナカマドの葉は飛ばされ、赤い身にはエビの尻尾が出来ていて察するに金属の階段や鎖も氷結していると思われ登頂は自分たちの能力を含めた判断で断念しました。



そのまま元の道を帰るのも面白くないので別山～真砂岳～雄山～室堂のコースを帰路にして室堂を目指す。

正に昔奥穂高までの縦走を計画して挫折した事と同じことをしてしまったが「山は逃げない」ので又の機会があるかどうか分からないが楽しみとして保留とした次第。

(ガスが吹き上げる劔)

今年は登り切っていない山を中心に完登したいと思ったが劔岳も未完となり、来年の楽しみとし、日々体力が衰える中少なくとも現状維持が出来る様に頑張りたい。

行動したくとも出来なく成る時期が目の前に来ているので日々を大事にさらに挑戦したいと思っています。